

3582LT0 ライブラリ Firmware

バージョン: 307B.GY001

目次

1. 対象装置	2
2. 事前準備品	2
3. Firmware Download に関する注意.....	2
4. Download 時間	2
5. Firmware Download 後のシステム・リブートについて.....	3
6. 保守部品交換前の Firmware レビジョン確認	3
7. 保守部品交換後の Firmware レビジョン確認	4
8. Firmware 自己解凍ファイルのダウンロード	4
9. Firmware Download 方法.....	5
10.Download 後の Firmware レビジョン確認	6

はじめに

本手順書は、3582LT0 ライブラリのメディア・チェンジャ(ロボット)部の Firmware を最新レビジョンに更新するために提供されています。

お客様御自身で最新の Firmware に更新することをお勧めします。

また、3582LT0 ライブラリのドライブ部の Firmware を最新レビジョンに更新するためには別途作業が必要となります。詳細については、Web サイトを御参照下さい。

1.対象装置

THE-3582-L23F2	(3582 LT0 ライブラリ装置 (L23F2))
THE-3582-L23F3	(3582 LT0 ライブラリ装置 (L23F3))
THE-3582-L23L2	(3582 LT0 ライブラリ装置 (L23L2))
THE-3582-L23L3	(3582 LT0 ライブラリ装置 (L23L3))

2.事前準備品

本手順に必要な治具を下記に示す。

品目	要件	備考
PC(ノートパソコン)	OS: Windows98 以降	
	PC 本体に RS 232C DSUB 9pin コネクタを有すること(注)	
	Hyper Terminal がインストールされていること	
RS-232C ケーブル (P/N19P1945, 灰色)	ストレートケーブル	装置添付品

(注)USB - シリアル変換ケーブルは使用不可。Firmware Download が失敗(ハング)し、Firmware 内蔵部品が破壊され回復不能となる。

3.Firmware Download に関する注意

- (1)必ずシリアルポートからの更新方法で実施すること。**tapeutil を使用したホストからのダウンロード方法や、RMU を使用した LAN インタフェースからのダウンロード方法は、ダウンロードに長時間(数十分)を要する。
- (2)本作業中は 3582 LT0 ライブラリに対するホストからのアクセス厳禁。**Firmware Download がホストアクセスと競合すると Firmware Download が失敗(ハング)し、Firmware 内蔵部品が破壊され回復不能となる。このため、NetBackup 等のバックアップ・アプリケーションのデーモンを停止して頂く様、本作業開始前にお客様に御願ひすること。(" 9.Firmware Download 方法" 参照。)
- (3) Download 関連ファイルを PC に ftp する場合、必ずバイナリで ftp すること。**ASCII にて ftp したファイルを 3582LT0 ライブラリに Download すると、Firmware Download が失敗(ハング)し、Firmware 内蔵部品が破壊され回復不能となる。
- (4)テープ・ドライブにテープ媒体が挿入されている状態で Download しないこと。**Firmware Download の実施前には、ドライブからテープ媒体を取外しておくこと。
- (5)Download 中は、3582 LT0 ライブラリのオペレータ・パネルを操作しないこと。**
- (6)Firmware Download 中に電源を off しないこと。**ライブラリに損傷を与え、部品の交換を余儀なくされる場合がある。

4.Download 時間

一般的な Download 時間は 0.2 hr/ライブラリ。

5. Firmware Download 後のシステム・リブートについて

システム・リブート,当該 LT0 ライブラリの P.OFF/ON 共に不要。

6. 保守部品交換前の Firmware レビジョン確認

保守部品交換後の Firmware レビジョンを交換前のレビジョンと同一にするため、事前に下記手順にて交換前の Firmware レビジョンを確認する。

(1)3582 LT0 ライブラリに添付されている RS-232C ケーブル(P/N19P1945,灰色)を用いて、PC-ライブラリのシリアルポート間を接続する。

【注意】必ずライブラリのシリアルポートと接続すること。3582 LT0ライブラリには、ライブラリのシリアルポートの他にRMU(P/N 18P7847)にもシリアルポートがあり、これらに接続しても本作業は実施できない。

(2)PCのHyper Terminalで予め疎通確認を実施すること。Hyper Terminalのプロパティ設定は以下。

- Bits per second: **19200**
- Data bit: **8**
- Parity: **None**
- Stop bit: **1**
- Flow Control: **None**

上記設定後、Hyper Terminalを接続してEnterすると、LIBCMD>プロンプトが表示される。

(3) Hyper Terminal にて下記コマンドを実行する。

【例】LIBCMD> ver

上記コマンドを実行すると、以下の出力結果が得られる。下線部(AppI)を確認のこと。

【出力例:ドライブ2台搭載の場合】

IBM ULT3582-TL Configuration

```
Serial Number: 1301094
Appl   : 237B.GY001    105A.00005
Picker : 004.0B2      BOOT.3F
RMU    : S/N [00308C0152D9] Version [185C]
Barcode Reader: T
SNC    : S/N [N/A] Version [N/A]
Drive 0: S/N [1110010504] Version [4772]
Drive 1: S/N [1110000713] Version [4772]
```

(4) Hyper Terminal を切断する。

【注意】PC-ライブラリのシリアルポート間のRS-232Cケーブルの接続はそのままとすること。 ” 7. 保守部品交換後のFirmwareレビジョン確認 ” で使用する。

7. 保守部品交換後の Firmware レビジョン確認

保守部品交換後、“6. 保守部品交換前の Firmware レビジョン確認” と同一の手順を実施する。

- (1) 保守部品交換前と同一のレビジョンである場合は、以降の作業は不要。
- (2) 保守部品交換前とレビジョンが異なる場合は、“8. Firmware 自己解凍ファイルのダウンロード” へ作業を進めること。

8. Firmware 自己解凍ファイルのダウンロード

- (1) WindowsPC(1)へ Firmware 自己解凍ファイルを受信するためのワーク・ディレクトリを準備して下さい。
(ex. C:¥download)
- (2) ワーク・ディレクトリへ Firmware 自己解凍ファイルを Web からダウンロードして下さい。
- (3) ワーク・ディレクトリに格納した Firmware 自己解凍ファイルをダブル・クリックして解凍してください。解凍すると、****_****(****はレビジョン)という名前のフォルダが作成されます。フォルダには、****_****.lif(****はレビジョン)という名前の Firmware ファイルと Download.exe が作成されます。

ファイル名	説明
3582dl.exe	Firmware ダウンロードプログラム
****_****.lif	Firmware 本体

【注意】ダウンロード関連ファイルを PC に ftp する場合、必ずバイナリで ftp して下さい。

ASCII にて ftp したファイルを 3582LT0 ライブラリにダウンロードすると、Firmware ダウンロードが失敗(ハングアップ)し、回復不能となることがあります。

9. Firmware Download 方法

【Download 前の準備】本作業中は 3582 LT0 ライブラリに対するホストからのアクセス厳禁。 Firmware Download がホストアクセスと競合すると Firmware Download が失敗(ハング)し、Firmware 内蔵部品が破壊され回復不能となる。**NetBackup 等のバックアップ・アプリケーションのデーモンが停止しているか、再度お客様に確認のこと。**
尚、NetBackup に関しては以下のコマンドを実行することでデーモンの停止を確認可能。

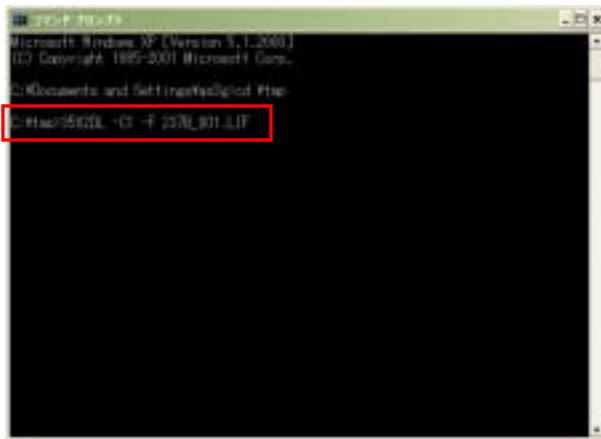
【例】 /usr/opensv/volmgr/bin/vmps 何も出力されないこと。

(1) PC DOSプロンプトにて、Firmware関連ファイルをコピーしたフォルダに移動する。

(2) 下記コマンドを実行する。(大小文字に注意のこと)

【例】 C:¥TEMP>3582DL -C1 -F ****_***.LIF

C1 : COMポート1を示す。COMポート2であれば、-C2を指定すること。
****_***.LIF : Firmware本体のファイル名を示す。

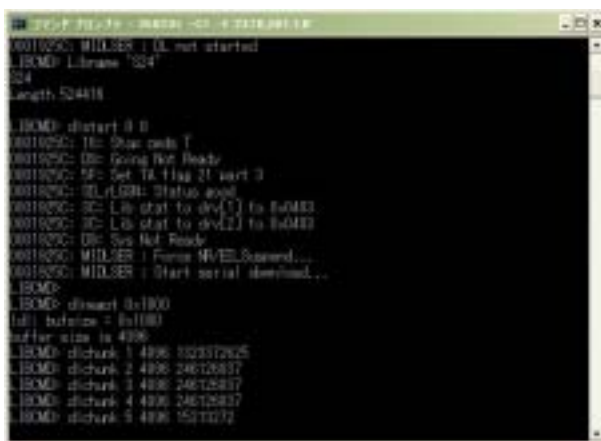


```
Microsoft Windows [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.
C:\Documents and Settings\qj\cmd\pna>
C:\temp>3582DL -C1 -F ****_***.LIF
```

(3) FirmwareがDownloadされる(約10分程度)。

【注意】 Firmware Download 中に絶対に電源を off しないこと。ライブラリに損傷を与え、部品の交換を余儀なくされる場合がある。

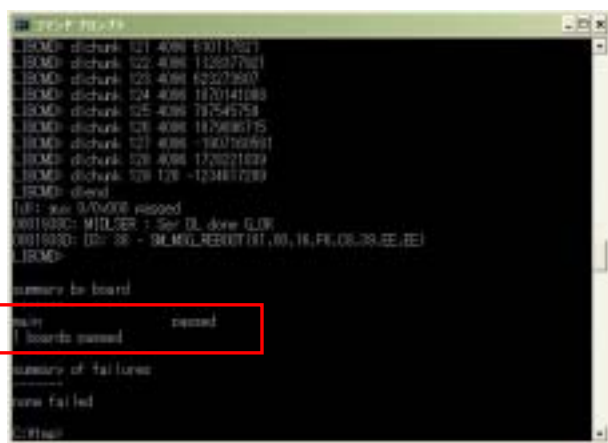
【出力例】



```
001029C: MILLER: LIL not started
LBOMD: Libname 7824
004
Length 524418
LBOMD: distart 0 0
001029C: The Shop ends T
001029C: Dlc Going Not Ready
001029C: SF: Set TA flag 21 wait 3
001029C: DEL_DISK: Status good
001029C: SC: Lib start to dev(1) to 80483
001029C: SC: Lib start to dev(2) to 80483
001029C: Dlc: Sys Not Ready
001029C: MID_SER: Forme NVEL Susend...
001029C: MID_SER: Start serial download...
LBOMD:
LBOMD: distart 0:100
lib: bufsize = 65536
buffer size is 4096
LBOMD: dchunk 1 4096 152337825
LBOMD: dchunk 2 4096 246128837
LBOMD: dchunk 3 4096 246128837
LBOMD: dchunk 4 4096 246128837
LBOMD: dchunk 5 4096 152337825
```

← Firmware Download 開始

(4)下記メッセージを確認して、Downloadが正常終了していることを確認する。



```
C:\>F 710.17
.LRMO> chunk 021 4096 630117521
.LRMO> chunk 022 4096 1126977621
.LRMO> chunk 023 4096 622273640
.LRMO> chunk 024 4096 1670141088
.LRMO> chunk 025 4096 787545758
.LRMO> chunk 026 4096 1679686175
.LRMO> chunk 027 4096 1807666981
.LRMO> chunk 028 4096 172021639
.LRMO> chunk 029 128 123461239
.LRMO> done
[!]: use 3/10000 passed
001030: MIDDLE: Set DL done CLR
001030: ID: 38 - 9LMXLREBOT101,00,16,PE,06,28,EE,EE)
.LRMO>
summary to board
main passed
boards passed
summary of failures
none failed
C:\>
```

(5)Downloadが完了すると、自動的に3582 LT0ライブラリが立上がる。

(6) PC DOSプロンプトを閉じる。(exitコマンド入力など)

10. Download 後の Firmware レビジョン確認

“ 6. 保守部品交換前の Firmware レビジョン確認 ” と同一の手順を実施する。保守部品交換前と同一のレビジョンであることを確認のこと。

来歴表		
来歴 番号	変更内容	発行日
0	新規作成	2006/04/10

 株式会社 日立製作所 エンタープライズサーバ事業部 2006年4月

(c) Hitachi, Ltd. 2006, All rights reserved.